

町民の皆さまとともに 活力あるまちづくりを

置戸町議会議長 佐藤 純一



新年、明けましておめでとうございます。

皆さまにおかれましては、輝かしい平成28年の新春を、ご家族おそろいで迎えられたこととお慶び申し上げます。

さて、昨年は、置戸町の分村独立100周年の時を迎え、井上町長を先頭に行政と町民が一つとなって各種記念事業への取り組みを展開することができ、本年実施される3事業を残し、計画通り32事業中29事業を無事終えることができました。

「讃えよう先人 伝えよう歴史 繋ごう未来へ」を記念事業のテーマに、まちづくりに貢献された多くの方々に功労表彰と感謝状の贈呈があり、盛大に開催された11月13日の「100周年記念式典」、そして11月29日には出演者450名、スタッフ70名、さらには多くの町民が見つめるなかで上演された「町民構成劇おけと100年物語～命のつながり」の熱演は見るものに多くの感動を与え、舞台と客席とが一体となり全町挙げての節目のお祝いになったことを大変嬉しく思います。

また、昨年から100周年の記念事業と並行して、町は国が推進する「地方創生」の骨格である人口減少に歯止めをかけ、地方の活性化を目指す「長期ビジョン」と「総合戦略」の骨子を踏まえ「置戸町まち・ひと・しごと創生総合戦略」の年度内策定に向けての取り組みを進めているところです。特に人口の将来展望については2008年から始まった人口減少が2040年以降加速度的に進むという予

測により、地方の自治体は実情を認識する必要があるということ、政府の関係機関から消滅する可能性が高い市町村のリストが公表され、改めて人口減少社会に立ち向かっていくための置戸町版「地方創生総合戦略」と第5次総合計画後期計画の重要性を把握し、行政のみだけではなく皆さまとともに将来にわたって活力あるまちづくりを目指していかなければならないと思います。

また、「100周年記念式典」では町議会を代表して「未来への誓い」を述べる機会をいただきました。先人が開拓し、発展してきたこの町を継続あるものにするには、町民一人ひとりの弛まぬ発想や努力の積み重ねが必要であり、またこの100年の間に培われてきた置戸町のバックボーンである「ひとを育てる」ことが何よりも重要であると思います。人間ばん馬、オケクラフト、そして全国的に例を見ない規模で発足した勝山グリーンファームなどを顕著な例とし、ひとの力、ひとのつながりがこれから先の「置戸町まち・ひと・しごと創生総合戦略」を始めとするまちづくりに大いに反映されることを期待します。

結びに、町民の皆さまのご健勝、ご多幸を心よりお祈り申し上げ、置戸町議会より年頭のご挨拶といたします。